

資料8 幼保小の連携・接続強化について

令和4年7月7日



文部科学省

令和4年度「幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業」の採択について

幼保小の接続期の教育の質的向上に向け、全ての子供たちの多様性にも配慮した上で学びや生活の基盤を育む「幼保小の架け橋プログラム」について、接続期のカリキュラムの開発や研修の実施等に重点的に取り組む自治体を採択する委託事業を今年度より実施。

公募の結果、19自治体から事業計画書の提出があり、審査会議における審査により、全自治体の採択が決定。令和4年5月17日、自治体へ採択通知を发出。

採択自治体名・調査研究概要

【道県】

道県名	調査研究概要
北海道	幼児教育施設や小学校のほか、福祉関係機関等との情報共有・活用及び架け橋期のカリキュラム開発・実践等を通して「 <u>接続に関わる課題</u> 」の解決方策を研究する。研究に当たっては、重点的に取り組む地域を指定し、接続に関する事例を蓄積し、 <u>わがまち版プログラムの策定を目指す</u> 。そして、研究成果について幼児教育推進体制を活用して広く共有することで、道全体の教育の質的向上及び地域間格差の解消を図る。
岐阜県	「 <u>幼保小の連携・協働による『つなぐ・高める・支える』架け橋プログラムの開発・実践</u> 」をテーマとし、県・市町村並びに大学関係者等が連携して「 <u>カリキュラム開発会議</u> 」を設置するとともに、架け橋期の教育の枠組みの構築、授業の改善等を行う。その際に、 <u>特別支援教育の観点からも検証することにより、切れ目のない支援となるよう研究を推進する</u> 。
滋賀県	協力校・園にコーディネーターを配置し、校種間の連携・接続を推進するとともに、 <u>指定の小学校の教員が保育へ参画することで幼小接続の意識改革を図る</u> 県独自の「 <u>幼小連携事業</u> 」と連携し、公開研修会の実施等を通して研究成果を全県的に普及させる。
広島県	幼保小連携・接続の取組の現状が市町において異なることを踏まえ、 <u>特別な配慮を要する子供への支援、幼児教育の質に関する保護者との共有促進など</u> 、指定地域ごとに研究テーマを設定し、「 <u>架け橋期のカリキュラム</u> 」の開発、実践、改善・発展等に取り組む。そして、その成果を研修等で横展開することで、県内全域の幼保小連携・接続の取組の普及を図る。
山口県	<u>架け橋期のカリキュラム開発会議と、幼児教育長期研修（小学校教諭を1年間幼稚園等に派遣する研修）の関係園・校とが研究協力し</u> 、架け橋期のカリキュラムの在り方及び保幼小の先生が共に学び、主体的に関わる仕組みづくりを進める。
高知県	幼保小の円滑な接続を図るため平成30年に作成した「 <u>高知県保幼小接続期実践プラン</u> 」も踏まえながら、 <u>地域の課題を踏まえた体制づくりを進めるとともに</u> 、学校種、設置者や施設類型の違いを越えた架け橋期のカリキュラム開発を行い、 <u>幼児期の遊びの中の学びや生活について幼保小の先生が共に考えることを通して</u> 、架け橋期における実践の充実を図る。

【市町】

市町名	調査研究概要
大館市 (秋田県)	0歳から22歳までの成長過程に全ての教育・保育期間が協働して関わることを基本とする「大館ふるさとキャリア教育」の理念のもと「人間的基礎力」の育成に向け、心理・療育等との連携を強化するとともに、研修や授業・保育参観等に参加しやすい体制づくり等の支援を行い、年中児から小学校低学年までの連続した「架け橋期のカリキュラム」の開発と、保育・授業改善のための研修及び普及を図る。
白石市 (宮城県)	域内の保幼小のみならず中学校も協力校に指定し、幼児期における遊びや、小学校における主体的な学習活動中の学びの姿について、その後の中学校における教育とも関連させながら、発達段階ごとの「学びの連続性」を整理することで、架け橋期のカリキュラムの開発・充実に取り組む。
西会津町 (福島県)	架け橋期の子供同士の交流として、町特産のミネラル野菜栽培を取り上げるなど、地域・保護者との連携を図りながら、地域の特色を生かした活動を展開することで、「挑む心とやり抜く力で、未来を創る西会津っ子」を育成する。
川越市 (埼玉県)	幼保小の子供の育ちをつなぎ、志を高くもち自ら学び考え行動する子供の育成を理念とする「川越市ときも学びのプロセス」を基盤として、架け橋期のカリキュラムを編成し、PDCA サイクルを確立していくことで、学びの連続性をふまえた未来へつなげる力を育てていく。
横浜市 (神奈川県)	大都市の特性を踏まえた架け橋プログラムの創造をテーマとし、子どもの姿を中心に、園・学校の取組みの収集・分析等を行うとともに、対話主体の研修モデルの作成や「横浜版接続期カリキュラム(仮)」の刊行を通じた支援を行う。具体的には、実践事例集作成や「遊び」等の研究事業と、接続期や教育交流等の研修事業を軸として本事業を進めていく。
袋井市 (静岡県)	幼児期から12年間を通した一貫教育カリキュラムに基づいた幼小中一貫教育の仕組みと幼児教育センターの幼保小接続の取組を活用し、架け橋期の全ての子どもたちの学びや生活の基盤を育むための具体的なカリキュラム開発と実施、検証、定着、発信を行う。
掛川市 (静岡県)	幼保小の接続に関して保育者と教員が共通の理解を深められるよう本市が策定した「かけがわ型育ちと学びのジョイントブック」を活用し、幼児教育と小学校教育の共有と理解を推進させながら、研究指定園・校において、アプローチ・スタートカリキュラムを一体的に捉えた「かけがわ型架け橋カリキュラム」の開発、検証を実施する。
京都市 (京都府)	地域の幼保小が架け橋期の育ちへの願いを共有し、架け橋期の教育が質的に向上されることを目的として、就学前施設の状態や幼保小接続の状態など特徴の異なる3つの小学校区において、それぞれの実態に応じたカリキュラムの開発等に取り組み、その実践に必要な研修を推進することで、全市的な広がりを図る。
枚方市 (大阪府)	幼保小連携の推進により、教育の質の向上が確実に図られるよう、小学校敷地内にある協力園における研究の経過や研修内容の好事例を市内の他園・他校へ随時配信・共有し、内容を磨き上げていくことで、どの地域においても活用可能なカリキュラムを開発する。

<p>箕面市 (大阪府)</p>	<p>カリキュラム開発会議において、めざす子どもの姿を共有した上で、<u>幼稚園と小学校が併設される等の特徴のある小学校区における従前の取組や課題等も踏まえながら、カリキュラムの開発、実践、評価を実施し、他校区への展開につなげる。</u></p>
<p>津和野町 (島根県)</p>	<p><u>保小連携コーディネーターと幼児教育コーディネーターを核としながら、ICTを活用した効率的な連絡体制下におけるカリキュラム開発や協働研修等を通して、架け橋期における個別最適な学びの実現や関係者間の相互理解の深化を図る。</u></p>
<p>高松市 (香川県)</p>	<p>「子どもの学びをつなぐ、持続可能な保こ幼小連携・接続」を研究課題とし、気軽に対話できる教職員関係の構築、子どもの学びの共有と分析、連携校区の実態に即した接続期カリキュラムの充実・改善を研究の柱として実施する。そのため、<u>子どもの姿等から子どもの学びを捉えて教職員間で伝え合う「子どもの学びトークシート」、互恵性のある交流に向けた「交流シート」「交流・参観メモ」の活用などを含めて研究を行う。</u></p>
<p>竹田市 (大分県)</p>	<p><u>幼児教育施設派遣研修に1年間派遣された小学校教諭が幼保小をつなぐ架け橋となり、療育機関や大分県等との連携を図りながら、協力園・校における架け橋期の取組を推進する。</u></p>

背景

幼保小の接続期の教育の質的向上に向け、全ての子供たちの多様性にも配慮した上で**学びや生活の基盤を育む「幼保小の架け橋プログラム」**について、**全国的な取組の充実と併せて**、実施モデル地域において具体的に開発し実践を行い、その成果の検証等を実施する調査研究を行う。

事業内容

モデル地域における検証等を通じた「幼保小の架け橋プログラム」の開発・改善

「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」を手掛かりに、一人一人の多様性に配慮した上で全ての幼児に**学びや生活の基盤を育む「幼保小の架け橋プログラム」**の開発・実践を進める。

全国的な取組の充実と併せて実施

モデル地域 重点的に取り組む幼保小を指定

- 中央教育審議会初等中等教育分科会「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」における議論の成果を踏まえ、接続期のカリキュラムの開発及び取組の評価
- 接続期のカリキュラムの実施に必要な教材や研修等を開発・実施
- 園や小学校におけるカリキュラム、指導計画や保育の計画の作成・実施



↑ 実態調査等

モデル地域の成果検証 研究機関による客観的な成果検証

接続期のカリキュラム等に関する改善事項を整理し、全国展開に向けた提言を行う

対象校種	幼稚園、保育所、認定こども園、小学校
------	--------------------

委託先	モデル地域として都道府県、市区町村 等
-----	---------------------

箇所数	モデル地域
単価、期間	12箇所、700万円/箇所 等

委託対象経費	調査研究に必要な経費 (人件費、委員旅費、謝金等)
--------	------------------------------

1. はじめに

「令和の日本型学校教育」を目指し、質の高い学びに向けた取組を推進中
幼稚園・保育所・認定こども園といった施設類型を問わず、幼児教育の質的
向上と小学校教育との円滑な接続を図り、接続期の教育を充実する必要
本特別委員会では、初等中等教育分科会の審議要請を踏まえ、全ての子
供に学びや生活の基盤を保障するための方策や体制整備等を審議
今後さらに、質の保障の仕組みを中心に検討

3. 課題

(1) 幼児教育の質に関する社会や小学校等との認識の共有

幼児教育の質に関する認識が社会的に共有されているとは言い難く、
小学校教育の前倒しと誤解されることがある
遊びを通じて学ぶ幼児期の特性の再確認、小学校・家庭・地域と共有

(2) 0～18歳まで見通した学びの連続性に配慮しつつ、幼 保小の接続期の教育の質を確保するための手立ての不足

幼保小の接続の課題

- ・園の7～9割が小学校との連携に課題意識
- ・半数以上の園が行事の交流等どまり、資質・能力をつなぐカリキュラムの編成・実施が行われていない
- ・スタートカリキュラムとアプローチカリキュラムがバラバラに策定 など
学びや生活の基盤の育成に大きな影響

特に、「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」を実践にどう生かすの
かなど、カリキュラムの参考になる資料が少ない

(3) 格差なく学びや生活の基盤を育む重要性と多様性への配慮

質の高い幼児教育が子供の望ましい発達と学びなどに結びついているとの研究成果

一人一人の特性と経験を踏まえた指導が必要

(4) 教育の質を保障するために必要な体制等

自治体の幼児教育推進体制として、幼児教育アドバイザーの経験
に拠るところが大きく、アドバイスの質のばらつきや継続性などに課題

(5) 教育の機会が十分に確保されていない子供や家庭への支援

教育の機会へのアクセスが十分ではない家庭もあり、教育と福祉の
垣根を越え、子供や家庭の総合的・継続的な支援が必要

2. 背景

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
と小学校学習指導要領では、幼児教育と小学校教育との円滑な接続を重視
幼児教育・保育の無償化の着実な実施と質の向上の必要
新型コロナウイルス感染症による学びや生活への影響、デジタル化の対応など
特別な配慮を必要とする子供（障害のある子供、外国人の子供等）への対応
持続可能な社会の創り手の育成の重要性

4. 目指す方向性

(1) 「社会に開かれたカリキュラム」の実現に向けた質に関する認識の共有

「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」を手掛かりに、「社会に開かれたカリ
キュラム」の観点から、小学校以降のカリキュラムと接続し、関係者と認識を共有

(2) 「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」と各園・学校や地域の創意 工夫を生かした幼保小の架け橋プログラムの実施

発達の段階を見通しつつ、5歳児から小学校1年生の2年間（「架け橋期」）に
着目。全ての子供に学びや生活の基盤を育む「幼保小の架け橋プログラム」の実施
「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」に関する理解・活用の促進
幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きと参考資料の初版（案）作成、
全国的な架け橋期の充実と、モデル地域の実践を集中的に推進
架け橋期のカリキュラム開発のイメージ

- ・園・小学校、教育委員会、子育て部局等によるカリキュラム開発会議を構成、
手引きや参考資料の初版（案）を活用しつつ架け橋期のカリキュラムの開発、研
修、教材としての環境の活用等の開発
- ・これを踏まえ、園・小学校で教育課程編成・指導計画作成、実施
進め方のイメージ

- ・4つのフェーズ（基盤づくり、検討・開発、実施・検証、改善・発展サイ
クルの定着）に対応して、カリキュラム開発会議、園・小学校の取組・体制、自治
体の支援体制の視点からイメージ例を提示

架け橋期のカリキュラムの共通の視点（例）

- ・期待する子供像、遊びや学びのプロセス、園の活動 / 小学校の単元構
成等、指導上の配慮事項、子供の交流、家庭や地域との連携
質保障の枠組み、モデル地域対象とした調査等、改善事項の整理、全国展開

(3) 全ての子供のウェルビーイングを保障するカリキュラムの実現

全ての子供のウェルビーイングを保障するため、教育課程編成等、実施、評価・改善

(4) 幼児教育推進体制等の全国展開による、教育の質の保障と専門性の向上

自治体の幼児教育推進体制の活用支援を強化、指導・助言内容の充実
組織的・計画的な研修、合同・参加研修等、ICT環境整備 など

(5) 地域における園・小学校の役割の認識と関係機関との連携・協働等

教育・福祉等の関係機関と連携・協働、障害のある子供への教育の充実等

幼保小の架け橋プログラムの実施について

幼保小の架け橋期の教育の充実を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子供に学びや生活の基盤を育む「幼保小の架け橋プログラム」を実施するため、幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）と参考資料（初版）を作成

令和4年度から3か年程度を念頭に、『全国的な架け橋の充実』と『モデル地域における先進事例の実践』を並行して推進

「幼保小の架け橋プログラム」のねらいは次のとおり

- ・ 幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児のカリキュラムと小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、地域の幼児教育と小学校教育の関係者が連携して、カリキュラム・教育方法の充実・改善にあたることを推進
- ・ 3要領・指針、特に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の正しい理解を促し、教育方法の改善に生かしていくことができる手立てを普及
- ・ 架け橋期に園の先生が行っている環境の構成や子供への関わり方に関する工夫を見える化し、家庭や地域にも普及 など

地域における体制のイメージ

自治体：地域の全関係機関の参画による「幼保小の架け橋期のカリキュラム」の開発、実施、評価・改善

○架け橋期のカリキュラム開発会議

【構成員】

- ・ 幼稚園、保育所、認定こども園、小学校
- ・ 教育委員会、子育て担当部局
- ・ 教員等養成や研修に関わる大学や専門学校
- ・ 保護者や地域の関係者
- ・ 架け橋期のコーディネーター（有識者）
- ・ 幼保小の関係団体・有識者

【取組内容】

- ・ 手引き（初版）、参考資料（初版）を活用しつつ、架け橋期のカリキュラムの開発
- ・ カリキュラムの実施に必要な研修、教材としての環境の活用等の開発
- ・ 持続的・発展的な架け橋期のカリキュラムに必要な支援
- ・ 国による架け橋期の教育の質保障の枠組みからの助言や各園・小学校の実践の検証結果を踏まえ改善 等

幼稚園関係団体
保育所関係団体
認定こども園関係団体
小学校関係団体
※団体間の連携の強化、団体主催の研修や会議を活用した普及啓発

大学等
※取組への助言、養成・研修への反映等

家庭・地域
※子供の育ちの共有、各園・小学校の取組への協力

様々な立場から意見や事例（動画や画像を含む）を出し合っ
て話し合う

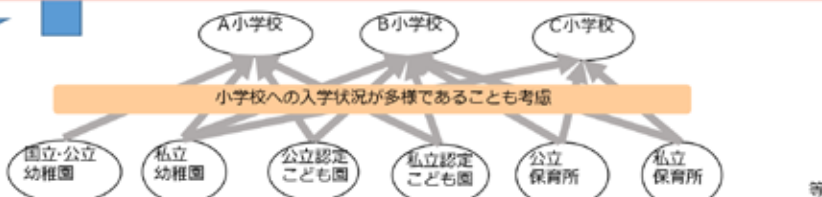


幼保小の架け橋プログラムの実施に
向けての手引き（初版）

令和4年3月31日
文部科学省

開発会議、園・学校、自治体が本プログラムを進めていく上でのイメージについて、基盤づくりから改善・発展サイクルの定着に至るまでの4つのフェーズから記載。自分たちが、今このフェーズにいるのかを判断し、次のフェーズに向けた取り組みのイメージ例も記載。

架け橋期のカリキュラムを踏まえ、教育課程編成・指導計画作成、実施
各園・小学校において、接続をコーディネートする者の明確化
持続的・発展的に実施する組織体制の構築



架け橋期の教育の質保障(国)

- 【検証体制】
- ・ 幼保小の接続期の教育の質的向上に関する検討チームのメンバー及び関係者 等

- 【検証等の内容】
- ①実態調査
 - ②改善事項の整理
取組推進

質保障

幼児教育推進体制等を通じ、事業の成果を全国の取組に普及・反映

全国的な取組の実施と併せて行う

幼保小の架け橋プログラム事業

令和4年度予算額 1.8億円（新規）

- ・ 幼保小の架け橋プログラムについて、モデル地域（12箇所程度）において具体的に開発し実践
- ・ モデル地域の成果検証の実施